様 式 C－7－1

平成２３年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 | 3 | 2 | 6 | 0 | 4 |　2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研 究 種 目 名　基盤研究（B）　4. 研究期間　平成 22 年度 ～ 平成 24 年度

5. 課 題 番 号 | 2 | 2 | 4 | 0 | 2 | 0 | 3 | 5 |

6. 研 究 課 題 名　アジアメガシティの多層化するモビリティとコミュニティの動態に関する経験的研究

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
40240345	ヨシハラ 吉原 ナオキ 直樹	社会情報学部	教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
00203274	クラサワ 倉沢 アイコ 愛子	慶應義塾大学・経済学部	教授
50164835	ハセベ 長谷部 ヒロシ 弘	東北大学・大学院経済学研究科	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。

当該年度に実施した研究は、研究分担者の一人が東日本大震災の被災者であったことから、必ずしも研究実施計画通りには進まなかったが、バリの日本人社会のコミュニティに関する現地調査（調査者：吉原、松本）、ジャカルタの RT/RW（町内会/隣組）に関する現地調査（調査者：倉沢）については計画通り実施することができた。またバリ北部のシガラジャの農村コミュニティの調査（調査者：長谷部）は現地研究者の協力を得て開始し、次年度に引き継ぐことになった。現地調査によって得られた資料はファイリングするとともに、現在、吉原と松本が中心になって整理・分析の作業をすすめている。もっとも第一次集約結果はすでに各メンバーに伝えられており、近々研究会を開催して結果の検討をおこなうことになっている。なお、上記作業と並行して、今年度はバリコミュニティ（バンジャール）に伝わる伝統文書 Awig-awig の一部を新潟大学中村潔氏の指導の下に翻刻・解説し、それを『バリ島に生きる古文書―ロンタール文書のすがた』として公刊した。同時にその成果をウダヤナ大学との共催の国際セミナーで発表し、現地新聞・テレビ等で大々的に取り上げられた。またバリにおける防災コミュニティに関する資料も収集し、その一部を日本の防災コミュニティ関係者（とりわけ福島県内の被災地コミュニティの方々）に伝え、比較社会論的視野の拡大に努めた。ちなみに、当初予定していたジャカルタの日本人社会のコミュニティ実態調査はインフォーマントの都合により実施できなかった。

10. キーワード

(1) アジアメガシティ　(2) 日本人社会　(3) バリコミュニティ　(4) 防災コミュニティ

(5)　(6)　(7)　(8)